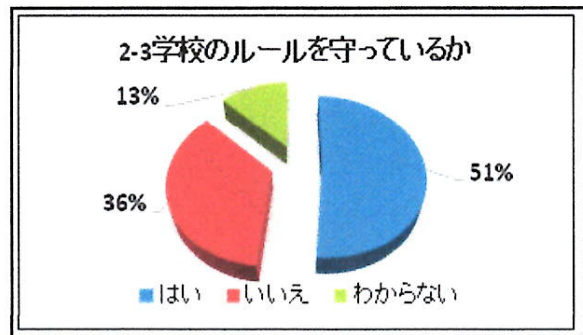
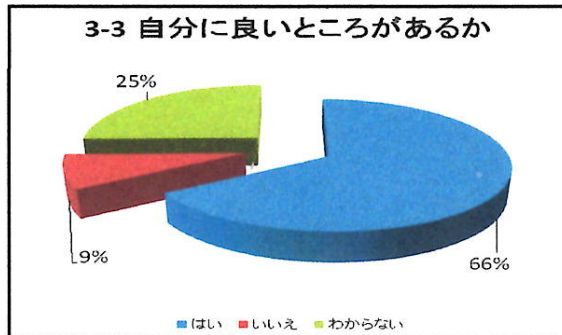




植柳の風

八代市立植柳小学校 校長室便り
平成29年10月23日NO. 68

子どもを伸ばすほめ方叱り方



10月上旬に子どもたちに「植柳の鐘を鳴らそう」アンケートを採ったが、その結果をまとめてみた。すると、あいさつなどは、9割近くの児童が自信をもってやっており、また、話す人の顔を見て話を聞く態度なども、昨年同時期調査結果49%から72%とかなり向上している様子がわかった。先生方の日々の指導に感謝である。

今回、新たに取り入れたアンケート項目には、「自分に良いところがあるか」「忘れ物への注意」「平日にメディア(テレビ、ゲーム等)を使っているのが1時間以内」などがある。表示しているように「自分に良いところがあるか」は全校児童の66%に留まった。また、「学校のルールを守っているか」については、昨年の34%から51%に高まっているが、まだ5割程度で、引き続き、規範意識の育成は全体で指導していく必要がある。

私たちは、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」という熊本県の教育行動指標に基づいて、一人一人のキラリと光る個性の伸長を図るとともに、是は是、非は非など、集団生活の一員として生活していくうえでの規律をしっかりと学ぶよう指導していかねばならない。タイトルに掲げた「子どもを伸ばすほめ方や叱り方」は、何十年も教職生活をやっていても時代に応じて少しずつ変化しており、なかなか「これがベスト!」ということとはできないが、それでもある一定の共通ポイントがあると思う。



ほめ方のポイントについては、できるだけ具体的にほめることが大事である。ただ「〇〇君は跳び箱が上手。」ではなく、「〇〇君は踏切板を強くけて、リズムよく跳ぶことが上手だね。」といえ、わかりやすいし、他の児童も参考にしやすい。次に、結果ばかりでなく、その過程を見つけてほめることが大切。「〇〇さんは今日の発表のために、休み時間に音読の練習をしていました。」など。児童たちも、先生はそのようなところまで見ていてくれたのかと気づいてくれるだろう。



叱り方のポイントは何か。もちろん、叱らないですめばそれにこしたことはないが、行動や言動を注意しなければならないことが発生することも多々ある。大事なポイントとして、行動や言動を注意するのであって、人間性を否定しないことである。そして、終りに「次(成長)を期待している」ことを伝えることが大切だろう。いずれにしても、叱るについてはとても難しいが、まずは「諭すこと」を心がけ、傾聴の態度・姿勢、心に響く言葉で対処したいものである。何がいけなかったかを児童に考えさせたり、そのような行動をとったわけは何だったかを話させ、自分を見つめさせるようにしたい。感情的に「怒る」にならない注意が必要である。ほめるにしても、叱るにしても、児童の日々の様子をよく見て、理解し、よりよい成長を促す教育的愛情が根底になくしてはならないことは明白である。